

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201476		
法人名	株式会社オールブルー		
事業所名	グループホーム咲花多		
所在地	佐世保市赤崎町1018-2		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である、「笑顔追及」をモットーとし、利用者様が毎日笑顔でいられるようなホーム運営を心掛けております。施設内デッキから佐世保湾を見渡せる景色と共にホーム内も景色同様綺麗な空間を提供できるように努力しております。また、往診の医師との連携や、訪問看護との連携により、毎日の利用者様の健康を守っていただける体制も整っています。季節のイベントにも力を入れており、利用者様に楽しんでいただけるよう企画いたしております。職員同士のあいさつ、利用者様へのあいさつを大事にし、コミュニケーションを職員、利用者ともどもとっていただけるように、心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは日当たりが良い和風造りの平屋の建物で、リビングからは佐世保港が一望できる長閑で自然豊かな環境にあり、入居者は四季の移り変わりを感じながら生活することができる。「笑顔追及、」の理念を実現に向け、職員全員が入居者一人ひとりの生活スタイルや本人にとって心地よい声かけを把握・共有し、丁寧な介護の実践することで入居者の笑顔に繋げている。コロナ禍により家族との面会制限もあったが、5類移行後、現在は制限を解除し自由に居室で面会ができており、家族や入居者からも喜ばれている。訪問調査日の職員ヒアリング時には、「自分の親もここに入居させたいと思うくらい、職員一人ひとりが優しく、声かけや対応をしている」との言葉や、入居者家族からも「家庭的な環境がよい」との声が挙がっており、家庭的な雰囲気の中で、ゆとりとふれあいを大切にしていることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム咲花多

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム咲花多	地域の中での介護施設として、近隣の方とのあいさつや、子供100当番の家など小学校とのつながりをもって事業所の運営に当たっている。	理念は玄関入り口に職員や訪問者の目に入るよう掲示している。職員は入居者の笑顔を引き出すために認知症の特性を理解し支援に努めている。職員間で理念を共有し、笑顔を追求し職員自身が自分にしてほしい介護とは何かを踏まえながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日ではないが、イベントや季節の行事など交流を行い、一員として役目を果たせるように過ごしていった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おおむね、長年同じ地でグループホームを運営しているだけの知名度はあると感じる。声をかけていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症で、会議を開けなかったことがおおきい。書面での開催は行っているため、意見は集約できている。	運営推進会議はコロナ禍の影響により令和5年度も書面による開催となった。運営推進会議のメンバーは地域包括支援センター職員、公民館館長、家族代表、ホーム職員、入居者により構成されている。会議録は会議に参加していない家族にも郵送しており運営の透明化を図っている。	運営推進会議の内容は、入居者の状況や行事報告が中心でメンバーからの意見は少ない。今後、活発な意見交換ができるよう会議内容を検討し、運営に活かせるよう工夫して取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者は地域包括支援センターになるが、コミュニケーションをとる機会はあり、協力関係は築けている。	地域包括支援センターには空室が発生した場合に連絡したり、また、同センターからも入居相談があるなど、日頃より協力関係を築いている。生活保護受給者に対し、市の担当職員と連絡を取り合い、本人の状況を伝えている。市が主催する研修にも積極的に参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は開放しており夜間は防犯のため、施錠している。 直接的な身体拘束をする機会がない。	玄関の施錠は、日中は施錠せず開放し、玄関ドアの入り口にカメラを設置したり、ドアの開閉時に音が鳴るような工夫をしている。身体拘束に関する指針を策定し、定期的に身体拘束適正委員会や研修会を行い、職員に周知を図っている。行政主催の研修会へ職員が参加後、ホームで伝達研修を行い、「身体拘束をしないケア」の理解を深めている。	令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴う虐待の防止のための措置に関する事項を踏まえ、今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し、体制を整え取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇面や介護技術などスタッフ同士での注意を図り 虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用する場があまりなく、制度としてはある程度の理解はあるものの、活用する場がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族とはコミュニケーションが取れており、運営に関する理解や納得は十分されているものと思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等は電話や面会時に直接伝わってくるものが多く、伝わってきた内容にはスタッフにすぐに伝え、反映させられるようにしている。	玄関先に意見箱を設置している。電話や面会時には職員から「気になることがあればいつでもご連絡ください」と添え、入居者や家族より意見や要望を出しやすいよう取り組んでいる。家族より要望があった場合は、申し送りノートに記載し、職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はシフトに直接入っており、ダイレクトに意見提案を聞く機会が多く、反映させることができる部分については反映させている。	管理者も日常的に介護現場に入っており、日頃より職員から運営に関する意見や提案を聞く機会が多い。定期的に職員会議を開催し、職員より入居者の支援方法等について活発な意見や提案が挙がっている。令和5年4月より管理者や計画作成担当者を変更しているが、職員全員で協力して業務を担っており、円滑な運営に繋がっていることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格試験への挑戦や、研修に行く機会など、目標を持って働くことができるように努めている。勤続年数や経験年数などに合わせた給与水準を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けたいが人員不足で、外部の研修に行く機会があまりない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症があり、なかなか外部とのつながりを持つことができなくなっていた。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは慣れていただけることを一番に考え、安心してもらえるような信頼関係づくりに努めて、傾聴の姿勢を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームとはこういうところだということの説明し、不安な部分を解消していただけるように不安な部分を聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のできるサービスを最大限に活用し、必要とされている支援を導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の暮らしを大事にし、その方が望まれる支援を行い、スタッフは生活を共にしている一員である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人様と家族様との時間を大切にし、本人に対しての支援のアドバイス等を聞き出し、活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム付近で暮らしていた方が多く往診の先生など以前から知っている方の出入りが多いので関係自体は途切れていない。	入居者の笑顔溢れる写真を多く掲載したホームだよりを毎月発行しており、家族に対し入居者のホームでの様子を伝えている。入居者の友人が土産を持参して面会に訪れることもあり、交流を継続できている。現在は面会制限もなく自由に面会でき、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時には全員がそろい食事をとられるので、顔を合わせられる。 一人が好きに入居者様もおられ、関係性づくりのバランスをとっていている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自施設を退去されてからは特に連絡等無いため相談や支援自体がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ沿うような形で支援を進めているが、難しい場合や単に思いではなくわがままな部分になっていることもある。	職員は入居者との他愛のない会話の中で本人の希望や意向を汲み取るようにしている。本人の顔色や表情を見ながら本人が安心できる声かけを心がけている。あらたに入居する方にはその方の生活リズムを職員がしっかり把握し、職員間で情報共有しながら本人の希望する生活ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にもらった情報をもとに把握するとともに、本人や家族様から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜間からの引継ぎや普段の様子を記録や申し送り、共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからは日常の様子を。ご家族様からは以前の様子を聞き出し、現状の計画を立案していった。	6か月毎に介護計画の見直しを行い作成している。計画作成担当者は職員から入居者の様子や思いなどを日頃より聞いて本人の状況を把握すると共に、入居者家族より電話や面会時を通じて要望等を聴き取り、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は行っているもので、それをもとに計画の立案を行い、実践していった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々利用者様の様子は変わっていくので、変わっていくことに対して、抗うのではなく、受け入れ、日々のケアに当たっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についてはいかせる部分を生かして支援をしていった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に来ていただいている先生との密接な関係ができおり、地域医療を行われている先生のもとで、適切な医療が受けられている。	入居者全員がホームの協力医による訪問診療を受けている。入居者の多くは入居前からのかかりつけ医でもある医師との信頼関係ができているため、定期受診以外でも急な体調変化時に診察できるため適切な医療を受けることができている。眼科などの専門医療機関への受診は家族対応を原則としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方に伝えるようにしているが、その前に往診の病院の看護師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に問い合わせその方の様子を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるところできないところがあるので、その辺を家族様に理解していただいている。	現在、ホームに看護師が常駐していないため、積極的な看取り支援は行っていない。尚、管理者は入居者、家族の希望があれば可能な範囲で要望に応じたい意向がある。入居時には医療行為ができないことがあることを説明している。重度化した場合は早い段階で主治医と連携し、家族の意思を確認して必要な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は救急車で対応や往診の先生への指示を仰ぐことで対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は定期的に行い、避難誘導の体制は取れている。	ホームは定期的に避難訓練を行い、訓練終了後は反省点や感想をまとめ、検証を行っている。食料品等の備蓄をリスト化し、担当職員が管理している。今後、避難時における入居者持ち出しファイルを整備することが望ましい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面ではスタッフお互いが注意できるような体制がある。 信頼関係を気付くことが大事だと考え、顔なじみの関係づくりに力を入れている。	職員は入居者の名前を呼ぶ際は、場合によっては下の名前で呼んだり、入居者が喜ばれるような呼称で呼ぶようにしている。入居者の状況を理解し、その方の立場に立った言葉かけや対応に努めている。入居者一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく生活できるよう、本人を不快にさせない介護を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様からの訴えは誰からもあることで、希望を表したりは実現できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった日課はなく午前中の体操と(強制ではない)食事の時間だけが決まっており、自身の好きなように生活ができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人が着たいものを着れるように支援を言っている。身だしなみの部分で、寝ぐせ等内容に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーに対応し、季節の料理を出すことに努力している。	食事は職員の手作りの物を基本に提供している。ホームの家庭菜園で栽培した野菜を用いて料理し食卓に並ぶこともある。入居者の誕生日や正月のおせち、敬老会では寿司などの行事食もあり、入居者に喜ばれている。テーブル拭きなど入居者ができることは職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については気を付けている。脱水に注意している。食事量については記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、介助が必要な方には口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や定期的なおむつ交換、パット交換を行っている。 無理がないような排泄を心掛けている。	排泄チェック表にて、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできる限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間に使用するポータブルトイレは毎日掃除し、定期的に洗浄、消毒を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、下剤の活用やトイレでの排泄を目指すなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めている。(決めないと介助ができない)本人に負担がかからないような入浴を行っている。	週に2回を基本に入浴支援を行っている。入浴を拒否する方には「お風呂」という言葉を出さずに誘導するなど声のかけ方を工夫したり、入浴日を変更するなど臨機応変に対応し、入浴しない場合は清拭にて対応している。車椅子の入居者でも浴槽に浸かることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に昼食後の休息は行われている。特に本人様に負担をかけるような生活は行っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内容の紙を見ながら、効用や気を付ける点など確認しながら服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナが落ち着いたので、お出かけやイベントを企画し、行った。嗜好品の部分では、提供できる部分は提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか人員配置的に難しい。出かけるということは屋外を歩くということで、転倒のリスクが高い人が基本的に多い。グループホームの入居者の外出のために地域の人々を巻き込むのは無理があるのでは。家族には協力をいただいている。	ホームでは、春は花見、秋はコスモス見物とドライブを企画している。コロナ禍による影響や入居者の重度化に伴い、以前のように職員と一緒に日常的な外出は難しい面もあるが、家族の協力の下、本人の自宅へ外泊したり墓参りなど、外出する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金はない。使う場面がなく、ほしいのことも言われない。持たれていると、紛失されたときに職員のせいとされたりすることもあり、トラブルを避けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やかかってくる電話でのやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりよく、全体的に明るいので、居心地よく過ごしていただけるような環境づくりに努めている。	ホームは日当たりのよい佐世保港が一望できる場所に立地し、入居者はリビングでゆっくりと寛いで過ごしている。天気の良い日にはウッドデッキに出て過ごすこともある。ホームの敷地には季節の花を育て、花瓶に生けて季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室がその場に当たる。居心地のいい空間を作れるように居室としての空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌がある部屋など、なじみのものをすでに皆様使われている。	入居者の担当職員が居室の衣替えや環境整備を行っている。清掃は毎日行い、清潔な居室で快適に過ごせるよう配慮している。入居時には本人の馴染みのある家具などを持ち込むことができる旨を家族へ説明し、位牌やテレビ・家具などが持ち込まれている。家族との面会も居室でできるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる部分はしていただくという介護の基本に立って工夫を凝らしている。		